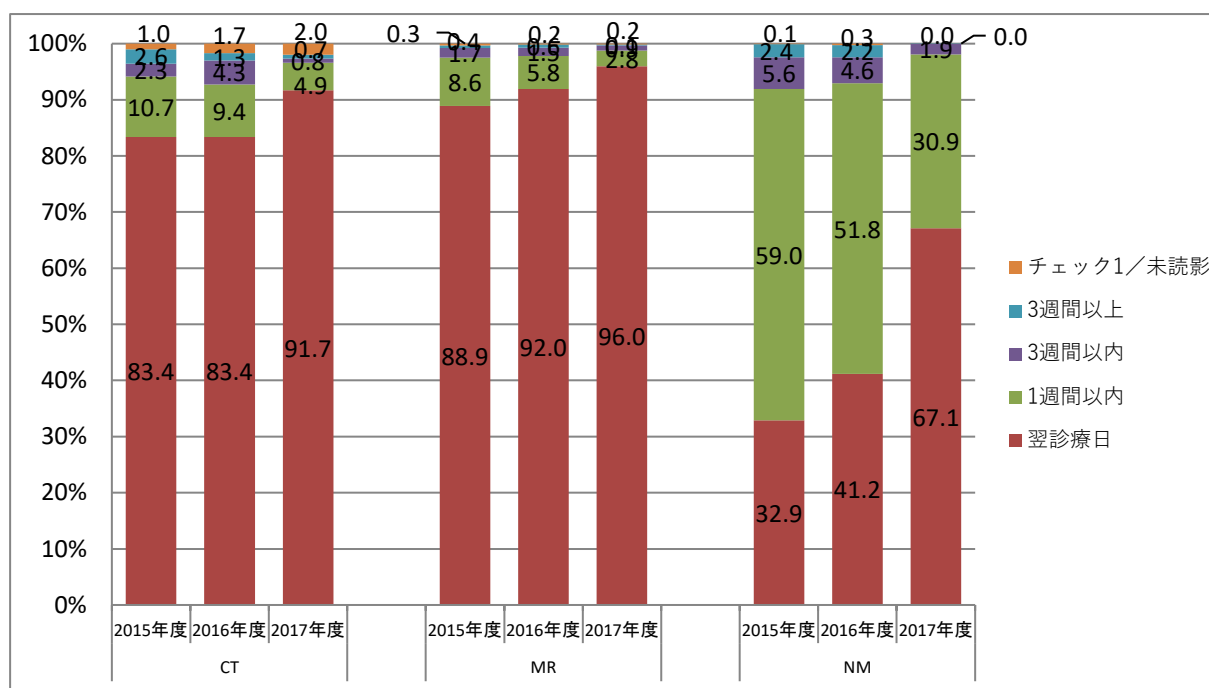


40. 放射線科医による読影レポート作成時間の割合



画像診断が行われるまでの期間の短縮は、より良い医療の提供において必須事項である。また、画像診断の専門医による読影は、正確な診断と質の高い治療を行う上で非常に重要である。

当院においては、検査の予約枠の見直しと稼働時間を拡大する事により、CT 検査・MRI 検査・核医学検査において検査件数の増加を達成してきた。

2017 年度 1 月からは新たな取り組みとして、従来読影を行っていなかった一部の CT 検査（救急、スクリーニング）についての報告書作成も行うようにした。

専門医による報告書については、2017 年度は CT 検査の約 92%が翌診療日までに読影され、報告書が記載されている。その後、報告書作成率は 1 週間以内で約 96%に達する。

MRI 検査においても CT 検査と同様な傾向を示すが、翌診療日までの報告書作成率は CT 検査よりやや高く 96%である。その後、1 週間以内では約 99%の割合で報告書が記載されている。

ただし、CT 検査・MRI 検査では、報告書記載が 100%行われるには至っていない。

核医学検査については、検査後の画像解析に時間を要し、その結果翌診療日までの報告書作成率は 67%程度となっている。ただし、1 週間以内では 98%を超える作成割合となり、その後 3 週間以内で 100%に至る。

正確な診断とより質の高い治療を提供するためにも、画像診断による読影報告書は迅速かつ正確に作成される必要がある。

データ提供：放射線部